

新たな手法を用いた肝炎ウイルス検査受検率・陽性者受診率の向上に資する研究

研究分担者：西村 知久

医療法人YT 美川眼科医院

研究要旨：眼科は全診療科の中で最も多くの手術を行っており、術前検査で肝炎ウイルス検査を行う機会が多い診療科である。美川眼科医院において、術前検査時に肝炎ウイルスに関する血液学的検査を行った患者を対象に、陽性者については肝臓専門医の受診勧奨を行い、陰性者については陰性結果の告知を行った。美川眼科医院において初めてB型肝炎陽性が発見されたのは令和3年に4人（0.2%）、令和4年に0人（0.0%）、初めてC型肝炎陽性が発見されたのは令和3年に25人（1.5%）、令和4年に22人（1.4%）であり、受診勧奨を行ったすべての肝炎検査陽性者が肝臓専門医やかかりつけ医を受診した。佐賀県においては肝炎対策が効奏しており、特にC型肝炎については年を追うごとに減少してきている。今後も肝炎検査陽性者に対する説明用のパンフレットをさらに分かりやすいものへと改変して使用し、肝臓専門医への確実な受診につなげていきたいと考えている。佐賀県内の眼科医にもこの取り組みを浸透させ、また、他の診療科においても同様のプログラムで受診勧奨を行えるように協力をしていきたい。

A. 研究目的

眼科は全診療科の中で最も多くの手術を行っており、術前検査で肝炎ウイルス検査を行う機会が多い診療科である。このような背景から、この研究班では、眼科診療における肝炎ウイルス陽性者の受診勧奨の取り組みを行っている。日本眼科医会としても、令和3年度以降、事業計画の中にこの研究に対して協力を行うことを盛り込んでいる。眼科の患者は高齢の方が多く、肝炎ウイルス陽性率が高い。我々眼科医が受診勧奨の協力を行うことで、肝炎撲滅に貢献できるとともに、術前検査を行っている他科での体制づくりを先導することができると考えている。

B. 研究方法

美川眼科医院において、術前検査時に肝炎ウイルスに関する血液学的検査を行った患者を対象に、陽性者については肝臓専門医の受診勧奨を行い、陰性者については陰性結果の告知を行った（図1）。B型肝炎及びC型肝炎の陽性率を調べ、その中で今回の検査で初めて発見された患者の割合を調べた。また、受診勧奨を行った時に、佐賀大学医学部肝疾患センターが作成した説明用のパンフレットを用いて説明し（図2）、そのアウトカムについても調査した。

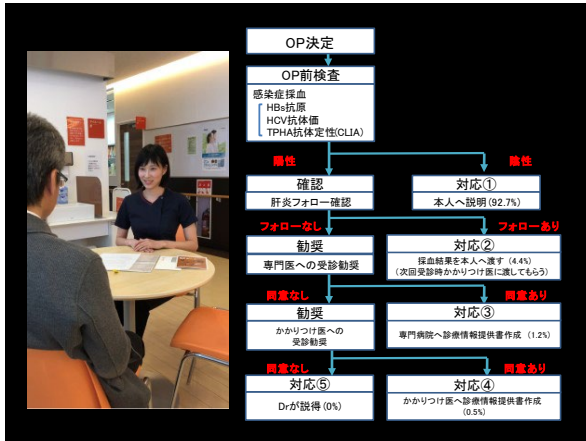


図1：美川眼科における肝炎検査後の取り扱い



図2：患者説明用のパンフレット

C. 研究結果

当院での術前検査における、B型肝炎の陽性率は令和3年は2.0%、令和4年は2.3%であり、C型肝炎の陽性率は令和3年は6.0%、令和4年は5.5%であった。B型肝炎は年によってばらつきが見られるが、C型肝炎については、佐賀県における肝炎撲滅運動が効果し、陽性率は年々減少していた。また、当院での検査で初めてB型肝炎陽性が判明した患者は、令和3年は4人で、全検査に対する割合は0.2%、陽性患者に占める割合は12.5%、令和4年は0人であった。C型肝炎については令和3年は25人で、全検査に対する割合は1.5%、陽性患者に占める割合は25.8%であった。令和4年は22人で、全検査に対する割合は1.4%、陽性患者に占める割合は25.0%であった（図3、図4）。この割合は、B型肝炎は陽性率が低いため、年によるばらつきがあった。C型肝炎については肝炎対策がうまくいっており、

減少が続いている。当院における受診勧奨については、肝炎陰性が92.7%、かかりつけ医においてしっかりとフォローアップができており、かかりつけ医に採血結果を渡してもらった患者が4.4%、診療情報提供書を作成し、肝臓専門病院に紹介した患者が1.2%、肝臓専門病院への受診を希望せずかかりつけ医に診療情報提供を行ったものが0.5%であった（図1）。

美川眼科での2013年～2022年までの採血結果陽性患者数のうち紹介した患者数の割合

	手術および注射患者数(件)	手術および注射患者数(人)	採血結果が陽性患者数(A)				採血結果が陽性患者割合(%)		採血結果が陽性患者のうち紹介した患者数の割合(%)		
			B型	C型	B型	C型	B型	C型			
2013年	1,875	1,165	16 (0)	100	3	1	1.4%	0%	8.6%	18.8%	1.0%
2014年	2,047	1,221	23 (0)	99	5	24	1.9%	0%	8.1%	21.7%	24.2%
2015年	2,365	1,268	19 (3)	98	2	29	1.5%	0.2%	7.7%	10.5%	29.6%
2016年	2,602	1,375	9 (0)	87	2	42	0.7%	0%	6.3%	22.2%	48.3%
2017年	2,560	1,281	21 (0)	74	8	25	1.6%	0%	5.8%	38.1%	33.8%
2018年	2,752	1,684	36 (2)	97	9	27	2.1%	0.1%	5.8%	25.0%	27.8%
2019年	2,829	1,678	32 (1)	90	6	22	1.9%	0.1%	5.4%	18.8%	24.4%
2020年	2,914	1,654	41 (3)	70	1	29	2.5%	0.2%	4.2%	2.4%	41.4%
2021年	2,849	1,618	32 (3)	97	4	25	2.0%	0%	6.0%	12.5%	25.8%
2022年	2,828	1,591	36 (1)	88	0	22	2.3%	0%	5.5%	0.0%	25.0%
平均	2,562	1,454	27 (1)	90	4	25	1.8%	0.1%	6.2%	15.1%	27.3%

※()内の数はB型とC型両方保持している感染者数を記載しています。

図3：美川眼科における肝炎検査陽性患者の割合

美川眼科での2013年～2022年までの手術及び注射患者数のうち紹介患者数の割合

	手術および注射患者数(件)	手術および注射患者数(人)	紹介患者数(人)		手術および注射患者数のうち紹介患者数の割合(%)	
			B型	C型	B型	C型
2013年	1,875	1,165	3	1	0.3%	0.1%
2014年	2,047	1,221	5	24	0.4%	2.0%
2015年	2,365	1,268	2	29	0.2%	2.3%
2016年	2,602	1,375	2	42	0.1%	3.1%
2017年	2,560	1,281	8	25	0.6%	2.0%
2018年	2,752	1,684	9	27	0.5%	1.6%
2019年	2,829	1,678	6	22	0.4%	1.3%
2020年	2,914	1,654	1	29	0.1%	1.8%
2021年	2,849	1,618	4	25	0.2%	1.5%
2022年	2,828	1,591	0	22	0.0%	1.4%
平均	2,562	1,454	4	25	0.3%	1.7%

※()内の数はB型とC型両方保持している感染者数を記載しています。

図4：美川眼科における肝炎検査陽性で紹介を行った患者の割合

D. 考察

佐賀県においては肝炎対策が効奏しており、特にC型肝炎については年を追うごとに減少してきている。ただ、B型肝炎は令和3年に4人、C型肝炎は令和3年に25人、令和4年に22人が初めて美川眼科医院で陽性と判明し、診療情報提供書を作成、肝臓専門医もしくはかかりつけ医への受診勧奨を行った。その結果、肝臓専門医もしくはかかりつけ医から受診したとの連絡があり、当院での受診勧奨が奏功したと考えている。今後も肝炎検査陽性者に対する説明用のパンフレットをさらに分かりやすいものへと改変して、使用していきたいと考えている。

E. 結論

令和3年、令和4年においては受診勧奨を行ったすべての肝炎検査陽性者が肝臓専門医やかかりつけ医を受診した。今後も肝炎検査陽性者のフォローアップの状況をしっかりと把握し、フォローアップがなされていない患者についてはしっかりと受診勧奨を行っていきたいと考えている。また、佐賀県内の眼科医にもこの取り組みを浸透させ、佐賀県下のすべての眼科で肝炎検査陽性者の受診勧奨を確実に行うシステムを作り上げていきたい。この活動が軌道に乗れば、今後他の診療科においても同様のプログラムで受診勧奨を行えるように協力をしていきたい。

F. 政策提言および実務活動

なし

G. 研究発表

1. 発表論文

1. 西村知久 是永匡紹 「眼科における肝炎対策」日本の眼科 第92巻 第10号 1284-1286 医会PickUp

2. 学会発表

1. ○西村知久 磯田広史 高橋宏和 眼科における肝疾患患者の受診勧奨について 日本消化器病学会総会

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

1. 西村知久 令和4年度佐賀県肝炎医療従事者研修会（WEB） 美川眼科医院における肝炎対策の結果 2022. 11. 28

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし